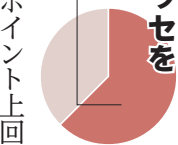


令和5年度市民アンケート結果の公表

りました。
また、芸術鑑賞した人のうち、コモッセで鑑賞した割合は68・2%となり、前年を10・8ポイント下回りましたが、数値としてはコロナ禍以前の状況に戻りつつあります。

1年間にコモッセを利用した割合

62・5%

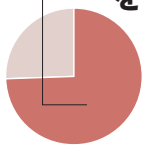


前年を7・8ポイント上回りました。特に30代、40代の割合が多く、子育て世代に利用されています。利用回数は年3回以上利用した人が全体で4割を超えており、定期的に利用されています。

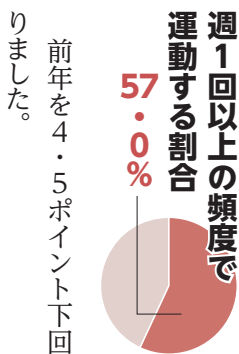
利用しない理由としては、「用事がないため」と回答した人が多いことから、複合施設の利点を生かした多様な利用方法の情報発信や、共有スペースの環境をコロナ禍以前の状態に整えながら、多くの市民が集い、賑わう施設運営を進めていきます。

大湯環状列石を訪れた割合

74・7%



全年代で7割を超え、幅広い層が遺跡を訪れていること



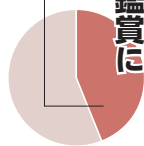
週1回以上の頻度で運動する割合

前年を4・5ポイント下回りました。

働き盛り世代である40代の実施率が10・4ポイント増加しましたが、30代と70歳以上では13ポイント以上減少し、年代別の実施率にこれまでも違いが見られます。また、家族や個人で実施できる運動を行うなど、運動形態も変わってきていると考えられます。

1年間に芸術鑑賞に親しんだ割合

44・1%

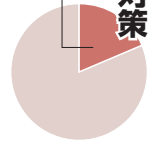


前年を17・6ポイント上回りました。社会的状況がウィズコロナに変化したことで、イベント開催も徐々に規制緩和され、多くの人が芸術鑑賞や文化活動を求めた結果とな

の対策は、地域への経済効果は高いものですが、生活支援としては、結果として恩恵を受けられなかった人がおり、行き届いていないと感じているようです。

③物価高騰対策

18・7%



「満足」「どちらかと言うと満足」と答えた割合は18・7%で、半数以上が不満と感じています。

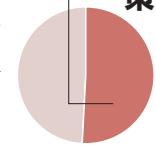
物価高騰対策は子育て、高

齢世代で不満を感じている人が多く、所得に対する生活必需品への支出割合が高いため、物価高騰の影響を特に強く受けていると考えられます。また、非課税世帯などへの支援のみではなく、全市民向けの支援策を求める意見もありました。

新型コロナウイルス感染症対策などの満足度

①感染症対策

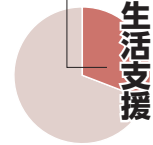
51・0%



「満足」「どちらかと言うと満足」と答えた割合が半数を超えた一方、不満を感じている割合は11・4%にとどまっていることから、市の対策はおおむね評価されているものと考えています。なお、年代が上がるにつれ満足度は高い結果となっています。

②経済対策・生活支援

27・9%



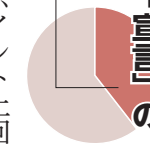
「不満」「どちらかと言うと不満」と答えた割合は36・2%で、特に30代と50代では、不満を感じている割合は40%を超えています。

プレミアム付き商品券など

ていきます。

「鹿角市2030ゼロ・カーボンシティ宣言」の認知度

39・6%



前年を7・3ポイント上回りましたが、約6割の市民が知らないと回答しており、さらなる周知が必要です。

2030年までにカーボンニュートラルを達成するためには、全市を挙げた取り組みが重要であり、女性や若年層を中心にさらなる意識醸成を図りながら、脱炭素化への取り組みを進めていきます。

地球温暖化の影響で関心があるものについては、「水害・土砂災害等の増加」「農作物への影響」「光熱費の増加」など、市民生活への影響が大きいもののほど市民の関心が高いという結果になりました。

市民アンケートの詳細な結果は、市ホームページで公開しているほか、各図書館でも閲覧できます。

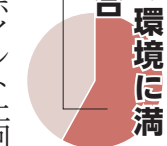


が分かりました。
周辺施設の整備については「飲食スペース及び売店等」や「憩いの場」を望む回答が特に多く、見学だけでなく、利便性や遺跡の活用といった幅広いニーズが求められています。

また、遺跡でのイベントの実施や関連グッズ、スイーツの開発のほか、案内看板の設置などPRの強化を求める意見があり、遺跡および地域全体の盛り上がり期待していると考えられます。

中心市街地の環境に満足している割合

58・1%



前年を2・2ポイント上回りました。不満と感ずる理由では、遊ぶ場所や買い物をするお店が少ないなど、魅力や賑わいが少ないことが多く挙げられたほか、公共交通機関が不便なことや駐車場の少ないことが挙げられています。

人口減少やコロナ禍による人流の減少に伴い、まちなかの商業機能は低下傾向にありますが、空き家や空き店舗の活用を推進し、まちなかの賑わい回復を進めることで、中心市街地の満足度を向上させ

市の施策について

市が進めている総合計画の32分野の取組方針について、「これまでの満足度」と「これからの重要度」に対して5段階で評価していただきました。それぞれ上位5つをお知らせします。

○満足度が高い取り組み

1. ごみの適正処理と資源リサイクルの推進
ごみ処理場内で破碎処理場が稼働したことにより、ごみの分別や利便性が向上したことなどが高く評価されました。
2. 心身の健康づくり
検診の無料対象者の拡充や若年者の健診空白世代の解消を図る取り組みのほか、切れ目のない母子保健の充実や健康意識の高揚への取り組みが評価されました。
3. 衛生的で良好な生活環境の確保
水道が安定的に供給されていることや下水道や浄化槽が普及しつつあり、水洗化の恩恵を受けられる機会が多くなったことで評価されています。
4. 文化財の保存
毛馬内の盆踊を含む「風流踊」が令和4年度にユネスコ無形文化遺産に登録されたことで、史跡や文化財に対する関心が高まり、高い評価になりました。
5. 緑と水の映えるまちの環境を守ります
環境保全が図られ、不法投棄の監視、鳥獣被害防止のための迅速な情報発信や捕獲などが評価されたと考えられます。

○重要度の高い取り組み

1. 適切な医療を受けられる体制の整備
自由意見では、産科の設置を求める意見や医師の確保などによる医療体制の拡充、維持を望む意見も出されています。
2. 地域ぐるみの子育て支援の充実
福祉医療費の無償化についての評価は高いものの、物価高騰などの影響による子育て費用へのさらなる経済的支援を望む意見が多く出されました。
3. 市民等の意欲のある就労・就農に対する支援
企業の人材不足や定年退職年齢の引き上げによる人材確保が課題とされているほか、若年者の市外流出に関する対策や支援を求める意見が挙げられています。
4. 子どもから青少年までの生きる力の育成
学校の統廃合による通学手段の確保などの学習環境の変化を不安視する声が多くあり、本市の将来を担う若年層の成長機会の強化への期待が高まっています。
5. 地域に合った公共交通手段を確保します
地域公共交通が近くを通らず不便に感じている意見や、免許返納者および車を持っていない人の交通手段の確保を望む意見が多く出ています。